

地域振興に貢献する地域と大学との関係(第5報) ～北見を例に:世界における地域と大学のポジション～

○内島典子 (北見工業大学 社会連携推進センター)

榎師 守 (北見工業大学 社会連携推進センター)

1. はじめに

地域に位置する大学には、教育・研究活動に加え、地域社会にとって価値ある大学として、大学の個性を活かしたより具体的な機能が強く求められている。地域にとって大学の存在自体が大きな貢献となっている面もあるが、地域社会に根ざしてその存在価値を十分に発揮するためには、大学の活動に地域の環境を色濃く反映させる必要がある。地域に位置する大学は、地域振興最大化に向け、大学/地域双方の将来展望と環境分析を踏まえ、両者のより良い関係を構築することが必須である。

これまでに筆者らは、地域と大学との間により良い関係を築くための考察の視点として、大学の研究環境¹⁾、地域の産業構造²⁾、自治体との関係³⁾、更には地域の地理・自然・歴史⁴⁾を取り上げ解析してきた。本報では北見工業大学を題材とし、世界的な視点から地域と大学との関係について解析する。

2. 世界的な視点から見た北見地域の環境と北見工業大学の研究環境

北見工業大学は、地の利を活かし寒冷地工学の拠点を目指した様々な研究活動を展開している。寒冷地を、気候区分と低温環境により生じる自然現象により定義する。世界の気候は Köppen の気候区分により 11 に分けられ、その中で 4 区分の気候が寒冷気候といわれる⁵⁾。また、低温下での特有の自然現象として、湖沼・河川の凍結、海氷、地盤凍結、永久凍土、氷河などがあげられる⁶⁾。地盤凍結が生じる地域を寒冷地と定義すると、地球上の陸地の 70% が寒冷地であるといえる⁶⁾。図 1 に世界における寒冷地の分布とそこにおける主要都市を記した。世界の主要都市や世界経済の中心地の相当数が寒冷地にあることがわかる。北海道は寒冷気候の区分に位置づけられる気候に分類され、地球規模での寒冷地の南限に位置する⁶⁾。そして北見地域は、北海道の中でも特に冷涼な地域である⁷⁾。

以上のことから、北見をフィールドとする種々の研究や気候・環境を踏まえた固有の地域連携は北見地域においてのみ価値を持つものではなく、世界的視点からも価値あるものであることが示唆される。

3. まとめ

地域に位置する大学の地域振興への貢献は、大学自身が有する教育・研究の固有の特徴を活かすだけでなく、また、その地域が持つ特徴をその地域だけを見て活かすのではなく、世界的な視野で捉えることにより見えてくることになる。地域が有する特徴は直接的な気候・地理環境だけに留まらず、それら気候・地理環境の上に成り立っている産業やその地域の規模、そしてその地域にある大学と行政機関との距離などがあげられる。それら全体を総合的に大学の置かれている環境と見ることにより、世界的な視野で捉えた大学の価値ある特長を見いだすことができる。地域に位置する大学は、その地域のあらゆる環境との関係を勘案した教育・研究を展開することで、他地域の大学には担うことができない地域における大学固有の存在価値を発揮することができ、より一層の地域振興への貢献を実現することができるものと考察する。

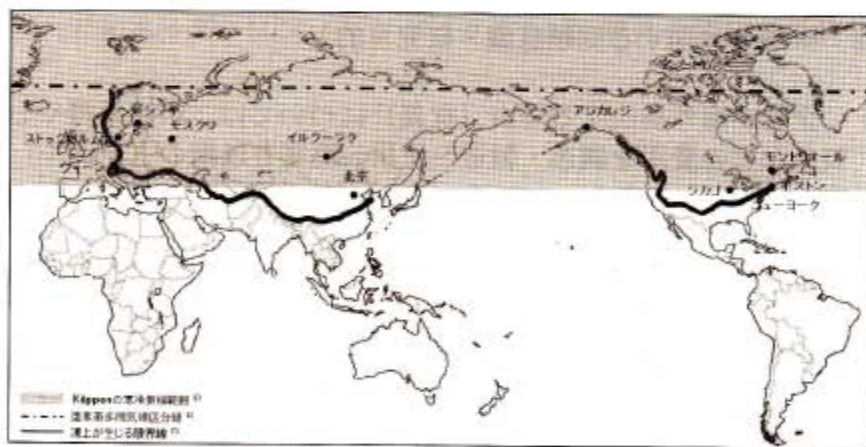


図 1. 寒冷地分布および寒冷地に位置する主要都市

1) 内島典子, 榎師守: 「地域振興に貢献する地域と大学との関係 (第 1 報)」, 産学連携学会第 6 回大会講演予稿集(2008)

2) 内島典子, 榎師守: 「地域振興に貢献する地域と大学との関係 (第 2 報)」, 産学連携学会第 6 回大会講演予稿集(2008)

3) 内島典子, 榎師守: 「地域振興に貢献する地域と大学との関係 (第 3 報)」, 産学連携学会第 7 回大会講演予稿集(2009)

4) 榎師守, 内島典子: 「地域振興に貢献する地域と大学との関係 (第 4 報)」, 産学連携学会第 7 回大会講演予稿集(2009)

5) 東晃: 「寒冷地工学基礎論」, 古今書院, 1981, 10.

6) 鈴木輝之: 「寒冷地環境概論」, 北見工業大学「新時代工学的農業クリエイター人材創出プラン」テキスト, 2006.

7) Orlando B. Andersland, Branko Ladanyi: "Frozen ground", An introduction to frozen ground engineering, Chapman & Hall, 1994.